

付記

観光研究

ここでは、わが国の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

(1) 日本国内の観光関連学会

データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構)によると、2020年8月現在、国内主要学術団体(2062件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会(以下「国内の観光関連学会」)は、合計で12団体である(表 付記-1)。

この他、「学会名鑑」には掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体には、日本旅行医学会(02年設立)、日本環太平洋観光学会(07年)、ものがたり観光行動学会(09年)、国際観光医療学会(10年)、長期滞在型・ロングステイ観光学会(16年)などがある。

① 全国大会

主な国内観光関連学会の大会テーマは、「インバウンドの高まりとオーバーツーリズム」(日本観光学会)、「スマホ世代の子どもとあそび」(日本レジャー・レクリエーション学会)、「情報技術の進展が余暇ツーリズム産業にもたらす影響」(余暇ツーリズム学会)、「地方創生とホスピタリティ・マネジメント」(日本ホスピタリティ・マネジメント学会)、「地域連携・高大連携の進化と観光ホスピタリティ教育(コロナ禍により中止)」(日本観光ホスピタリティ教育学会)、「オリンピック、スポーツ、ツーリズム」(観光学術学会)などであった。

② 機関誌・学会誌

各学会が発行する機関誌・学会誌は合計13誌である。18年度に発行された機関誌・学会誌の中で特集テーマが設定されていたものとしては、「平成をふりかえる」(日本観光研究学会)、「観光まちづくりとDMO」(観光情報学会)、「オリンピック・パラリンピック、スポーツ、ツーリズム」、「伝統芸能と観光」(観光学術学会)などがあった。

(2) 大学・大学院

「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学部、学科を有する大学は43、大学院は11存在している(表 付記-2)。

2019年度は、城西国際大学が観光学部ウェルネスツーリズム学科を「観光学科」に改称。観光関連資格の対策科目や、鴨川市の施設との連携授業など、実践的かつ具体的な知識と体験を得ることができるカリキュラムとした。また、ノースアジア大学が法学部観光学科を「国際観光学科」に改称。グローバル化が進展する社会で求められる専門知識と技能を身につけた高度な人材の育成を意識したカリキュラム編成となった。

観光産業における人材育成が課題となっているなか、観光庁では、宿泊業をはじめとした地域の観光産業の経営力強化や生産性向上を目指して、全国13大学にて「社会人向け講座」(募集人員各大学20名程度、受講料原則無料)を開講した(表 付記-3)。

(3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

2019年度の科学研究費助成事業(以下、科研費)「観光学関連」(小区分80020)における新規採択件数は85件(交付84件、採択1件)、研究種目の内訳は、基盤研究(B)9件、基盤研究(C)55件、若手研究18件、特別研究員奨励費2件、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A)1件であった(表 付記-4)。

配分される科研費の合計は4億532万円、その内訳は、100万円未満が1件、500万円未満が74件、1千万円未満が2件、5千万円未満が8件であった。

研究のキーワードとしては、観光(9件)を筆頭に、観光資源(5件)、観光行動(4件)、インバウンド(3件)、マーケティング(3件)、着地型観光(3件)、観光まちづくり(3件)、関係人口(3件)と続く。2件は、DMO、おもてなし、アクションリサーチ、イノベーション、オーバーツーリズム、カジノ、グリーンツーリズム、コンテンツツーリズム、サービズ、スポーツツーリズム、ツーリズム、フードツーリズムとなっている。

新規採択件数を研究機関別にみると、和歌山大学が5件(総配布額23,530千円)、九州産業大学が4件(同11,830千円)、琉球大学が4件(同16,250千円)、3件で首都大学東京、北海道大学、立教大学と続く(表 付記-5)。(吉澤清良)

表 付記-2 日本の観光関連大学・大学院の数

	大学	学部	学科	大学院
2019年度	43	16	43	11
2018年度	43	16	45	11
2017年度	42	17	44	9

(注) 大学の場合は学部・学科名に、大学院の場合は研究科・専攻名に「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」という言葉を含むもののみをカウント。

資料：文部科学省「年度別開設大学等一覧」、各大学サイトより(公財)日本交通公社作成

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

(設立年順)

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
1	日本観光学会 Japan Academic Society of Tourism (JAST) ○正会員 197名 ○準会員(大学院生・学部生) 37名 ○賛助会員 2団体 (2020年7月現在)	【会長】 神頭広好(愛知大学) 【本部/事務局】 青山学院大学社会情報学部 長橋研究室 【支部】 東北・北海道支部、関東支部、中部支部、関西・中四国支部、九州・沖縄支部	○全国大会の開催(年1回、研究報告、シンポジウム、学会総会等) (2019年度第113回全国大会テーマ:インバウンドの高まりとオーパーツーリズム) ○支部会(研究発表会、支部総会)の開催 ○第3回学生観光プレゼン大会(関東支部主催) ○機関誌の発行(『日本観光学会誌』、年1回) ○学会賞の授与	【学会誌】 『日本観光学会誌』(1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』1961～1995年) (2019年度:第60号 論文3本、研究ノート2本、調査資料1本、書評1本) 【大会論文集】 『研究発表要旨集』(年1回)
2	日本レジャー・レクリエーション学会 Japan society of Leisure and Recreation Studies (JSLRS) ○正会員 290名 ○購読会員 20団体 (2020年7月現在)	【会長】 前橋明(早稲田大学) 【本部/事務局】 早稲田大学人間科学学術院 前橋明研究室 【支部】 なし	○学会大会(年1回、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、総会等) (2019年度第49回学会大会テーマ:スマホ世代の子どもとあそび) ○研究会・講演会等の開催 ○機関誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』) ○学会ニュースの発行(年2～3回) ○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞(学会賞、研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞)、2007年～) ○研究の助成(研究助成金制度、2011年～) ○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レクリエーション・公園協会との情報交換、ホームページのリンク等)	【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』(1992年～、年3回) (前身『レクリエーション研究』1965～1991年) (2019年度:第88号 原著4本、総説1本/第89号 第49回学会発表論文集/第90号 原著1本、研究資料1本、第49回学会大会基調講演1本、シンポジウム4本、ワークショップ3本、地域研究1本) 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
3	余暇ツーリズム学会 The Association for Leisure and Tourism Studies ○研究者 143名 ○実務家 84名 ○大学院生 30名 ○賛助会員 7名 (2020年3月現在)	【会長】 長谷川恵一(早稲田大学) 【本部/事務局】 早稲田大学商学学術院 長谷川恵一研究室 【支部】 関東支部、九州支部	○学会大会の開催(年1回、自由論題報告、会員総会、統一論題報告・討論等) (2019年度全国大会テーマ:情報技術の進展が余暇ツーリズム産業にもたらす影響) ○支部大会の開催(年1～2回、研究発表等) ○研究部会の開催(ライフスタイル研究部会、観光地域ストーリー研究部会、ヘルス・スポーツツーリズム研究部会、飲料サービス研究部会、レジャー・スタディーズ研究部会、エンタテインメント・ツーリズム研究部会、フライダル研究部会、ツーリズム心理研究部会、学生教育研究部会) ○学会誌の発行(『余暇ツーリズム学会誌』) ○ニュースレターの発行(年数回) ○図書の編集(『余暇学を学ぶ人のために』『余暇事業論-多様化する余暇事業の未来予測』等、合計4冊) ○受託研究 ○会員の研究活動支援 ○学会賞の授与(2016年～)	【学会誌】 『余暇ツーリズム学会誌』(前身『余暇学研究』1998～2013年) (2014年3月～、年1回) (2019年度:第7号 論文2本、研究ノート4本、特別寄稿論文(統一論題)1本、発表要旨(統一論題)1本) 【大会論文集】 『余暇ツーリズム学会大会研究報告予稿集』(2013年～、年1回)
4	日本観光研究学会 Japan Institute of Tourism Research (JITR) ○正会員 1,068名 ○準会員 6名 ○名誉会員 9名 ○賛助会員 6団体 ○特別会員 8団体 (2020年7月現在)	【会長】 梅川智也(國學院大学) 【本部/事務局】 豊島区西池袋4-16-19 コンフォルト池袋106 【支部】 関西支部(2003年7月設立) 九州・韓国南部支部(2007年4月設立) 東北支部(2015年3月設立)	○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表等) (2019年度第34回全国大会シンポジウムテーマ:持続可能な観光のあり方を考える-沖縄の取り組みと課題から-) ○総会の開催(年1回、講演、学会賞表彰、シンポジウム) ○研究分科会の設置、助成 ○研究懇話会(年2回、1月と7月)の開催 ○支部の活動 ○機関誌の発行(『観光研究』) ○観光学全集の発行 ○会務報告の発行(『会務報告』、年2回) ○メールニュースの配信 ○特別研究の助成 ○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～) ○優秀論文賞の授与 ○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定) ○観光研究に関する外国諸団体との交流 等	【学会誌】 『観光研究』(1987年～、年2回) (2019年度:Vol.31 No.1 論文10本、研究ノート2本、学会活動報告等/Vol.31 No.2 論文6本、書評1本、特集(平成をふりかえる)8本、学会活動報告等) 【大会論文集】 『全国大会学術論文集』(1986年～、年1回)
5	日本国際観光学会 Japan Foundation for International Tourism (JAFIT) ○正会員 387名 ○学生会員(大学院・大学・短期大学・専門学校生) 40名 ○名誉会員 2名 ○賛助会員 2団体 (2020年6月現在)	【会長】 島川崇(神奈川大学) 【本部/事務局】 渋谷区神宮前6-19-3 東邦ビル5階 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表等) (2019年度第23回全国大会特別講演テーマ:選ばれ続ける地域とは～自立・持続可能な観光・リゾート経営) ○例会の開催(研究発表、講演、年5回) ○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』) ○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催(2003年～) ○自由論集の発行(年1回) ○テーマ別研究部会による活動(①観光への知的財産権活用、②宿泊関連、③持続可能な戦跡観光、④精神性の高い観光、⑤福祉観光、⑥おもてなし文化、⑦航空マネジメント、⑧オーバーツーリズム、⑨観光交通、⑩デステネーション&ブライズプランディング、⑪ワーケーション、⑫観光マネジメント) ○国内外でのシンポジウム開催 ○国際観光研修旅行の実施 ○教科書・学術書の出版 ○懸賞論文の実施(太田記念国際観光懸賞論文) ○国際観光に関する学術調査及び研究 ○内外の企業、団体、個人からの委託研究 ○関連学会、協会との連絡及び交流	【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』(1993年～、年1回) (2019年度:第27号 論文8本、研究ノート6本、施工房・日本国際観光学会助成研究プロジェクト報告1本) 『日本国際観光学会自由論集Vol.3』(34本) 【大会論文集】 『全国大会梗概集』(2001年～、年1回発行)
6	日本ホスピタリティ・マネジメント学会 Japan Academic Society of Hospitality Management (JASH) ○正会員 237名 ○学生会員 10名 ○名誉会員 6名 (2020年3月現在)	【会長】 山本壽夫(日本大学) 【本部/事務局】 日本大学生産工学部 山本壽夫研究室 【支部】 関東支部、関西支部、九州支部	○全国大会の開催(年1回、研究発表、年次総会、基調講演、パネルディスカッション等) (2019年度第28回全国大会テーマ:地方創生とホスピタリティ・マネジメント) ○研究専門部会の開催(適宜) ○研究発表会(各支部それぞれ年2回) ○学会誌の発行(『HOSPITALITY』/INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT) ○図書・報告等の発行 ○学会賞の授与(日本ホスピタリティ・マネジメント学会大賞等) ○内外の学会、その他関連団体との連絡	【学会誌】 『HOSPITALITY』(1993年～2012年度:年1回、2013～2015年度:年2回、2016年度～:年1回) (2019年度:第30号 論文16本、研究ノート4本) 『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』(2012年～、年1回(2013年は年2本)) (2019年度:Vol.6 No.1 論文4本、研究ノート1本) 【大会論文集】 なし
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies ○正会員 195名 ○学生会員 43名 ○法人会員 5団体 (2020年3月現在)	【会長】 山下晋司(帝京平成大学) 【本部/事務局】 日本大学 商学部内 【支部】 なし	○全国学術研究大会の開催(年2回、研究発表、シンポジウム、特別講演、自由論題報告、パネルディスカッション、視察研究等) ○学会誌の発行(『総合観光研究』) ○会報の発行 ○海外の研究者との交流 ○研究成果を著書として発刊 ○観光関連の文献・データの収集	【学会誌】 『総合観光研究』(2002年～、年1回) 【大会論文集】 なし

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 119名 ○学生会員 4名 ○法人会員 4団体 ○名誉会員 6名 (2020年7月末現在)	【会長】 細野昌和(北海道大学) 【本部/事務局】 (一社) 若手県土木技術センター内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○役員会、総会の開催 ○研究大会の開催(年1回、基調講演、研究発表、会員総会等) (2019年度第18回研究発表会基調講演テーマ:北海道の観光とモビリティを考えるーエコ・モビリティの可能性とその展開ー) ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の開催 ○学会誌の発行(『観光まちづくり学会誌』) ○学会賞の授与(学術論文賞・優秀発表賞)	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』(2003年～、年1回) (2019年度:第16号 論文2本、報告2本) 【大会論文集】 なし(学会誌及び学会ホームページに掲載)
9	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators (JSTHE) ○正会員 169名 ○準会員 10名 ○特別会員 1団体 ○名誉会員 3名 (2020年7月現在)	【会長】 小畑力人(大阪初芝学園) 【本部/事務局】 杏林大学外国語学部内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、講演、事例報告、教育実践報告・研究教育論文発表、ワークショップ等) (2019年度第19回全国大会テーマ:地域連携・高大連携の進化と観光ホスピタリティ教育ー新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止ー) ○シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年1～3回) ○機関誌の発行(『観光ホスピタリティ教育』) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○Newsletterの発行(年3回程度)	【学会誌】 『観光ホスピタリティ教育』(2006年～、年1回) (2019年度:第15巻 特集記事(観光まちづくりとDMO)4本、学術研究論文3本) 【大会論文集】 『全国大会論文集』(年1回)
10	観光情報学会 Society for Tourism Informatics ○正会員 179名 ○学生賛助会員 11名 ○ゴールド賛助会員 7名 ○個人賛助会員 7名 ○企業・団体会員A 2団体 ○企業・団体会員B 4団体 (2020年7月1日現在)	【会長】 大藪多可志(日本海国際交流センター) 【本部/事務局】 北海道大学大学院情報科学研究科内	○全国大会の開催(年1回、基調講演、パネル討論、学術講演セッション、総会等) (2019年度第16回全国大会公開シンポジウムテーマ:物語と観光) ○研究発表会の開催(年2回、研究発表、エクスカージョン) ○観光情報学研究会の開催(さっぽろ、はこだて、かが・のと、たいせつカムイ、ちゅうてく、いわて、オホーツク圏、とうかい、きゅうしゅう、さんいんさんよう) ○学会誌の発行(『観光と情報』) ○賞の授与(大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞) ○メールニュースの配信 ○情報提供事業、コンサルティング、活動支援 等	【学会誌】 『観光と情報』(2005年度～、年1回) (2019年度:第15巻 特集記事(観光まちづくりとDMO)4本、学術研究論文3本) 【大会論文集】 『全国大会講演予稿集』(2004年度～、年1回) 『研究発表会講演論文集』(2009年度～、年2回)
11	コンテンツツーリズム学会 The Academy of Contents Tourism (ACT) ○正会員 100名 ○学生会員(大学院生) 17名 (2020年3月現在)	【会長】 増淵敏之(法政大学) 【本部/事務局】 法政大学大学院政策創造研究科増淵敏之研究室	○論文発表大会(年1回、特別講演、論文発表、講評等) (2019年度第7回全国大会特別講演テーマ:地霊(ゲニウス・ロキ)としてのシャーロック・ホームズ) ○学会論文集の発行(『コンテンツツーリズム学会論文集』) ○シンポジウムの開催(年1回)(2019年度基調講演テーマ:東アジア文化都市2019豊島はらばら、どきどき、文化がいっぱい。/パネルディスカッションテーマ:豊島区インバウンドとコンテンツツーリズム) ○研究会(不定期開催) ○アニメ聖地巡礼本即売会への出展(2回)	【学会誌】 『コンテンツツーリズム学会論文集』(2014年度～、年1回) (2019年度:論文4本、研究ノート3本、調査報告1本、その他1本) 【大会論文集】 なし
12	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies (JSTS) ○正会員(一般) 367名 ○正会員(院生) 78名 ○正会員(シニア) 2名 ○準会員 2名 ○名誉会員 1名 (2020年7月現在)	【会長】 橋本和也(京都文教大学) 【本部/事務局】 (有)CR-ASSIST(大阪府) 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、フォーラム、大学院生育成セミナー、学生ポスターセッション、一般研究発表等) (2019年度第8回全国大会シンポジウムテーマ:オリンピック、スポーツ、ツーリズム) ○研究集会の開催(2019年度第7回研究集会テーマ:観光と都市再編ーツーリズム・ジェントリフィケーションの諸相) ○機関誌の発行(『観光学評論』) ○学会賞の授与(著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞など8種、2013年度～) ○図書等の刊行 ○観光学の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流	【学会誌】 『観光学評論』(2012年度～、年1回/2013年度～、年2回) (2019年度:vol.8 No.1 萌芽論文2本、特集論文(オリンピック・パラリンピック/スポーツ、ツーリズム)5本、書評2本/vol.7 No.2 原著論文5本、展望論文1本、萌芽論文1本、特集論文(伝統芸能と観光)4本) 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』(2012年度～、年1回)

(注) データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構、<http://gakkai.jst.go.jp/gakkai/>)に収録されている国内の主要学術団体(2020年8月16日現在、2,062件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語が含まれる学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。
資料: データベース「学会名鑑」、各学会ホームページ、各学会への聞き取り調査から(公財)日本交通公社作成(2020年9月現在)

表 付記-3 地域の観光産業を担う中核人材育成講座のテーマ(2019年度)

大学	講座テーマ
横浜商科大学	MICE ビジネス中核人材育成講座 2019
信州大学	山岳観光資源を生かしたユニバーサルツーリズム推進人材育成プログラム
北陸先端科学技術大学院大学	地域観光のイノベーション推進人材の育成
滋賀大学	滋賀大学ウェルネスツーリズムプロデューサー養成講座
神戸山手大学	ツーリズムプロデューサー養成課程
愛媛大学	愛媛県・四国の儲かる観光サービス業を担う中核人材育成プログラム
小樽商科大学*	観光産業の中核を担う経営人材育成講座アドバンスコース
青森大学*	体験型観光商品企画担当者セミナー
明海大学*	地域観光強化を担う宿泊施設のためのミドルマネジメント育成
東洋大学*	ビジネスリーダーを目指す女性のための「最新・観光学講座」
和歌山大学*	観光カリスマ講座
大分大学*	宿泊業の人材育成講座
鹿児島大学*	鹿児島島の地域資源とインバウンド旅行者

(注)*: 観光庁の支援が終了し、各大学主体で実施した大学。
資料: 観光庁ホームページより(公財)日本交通公社作成

表 付記-5 科研費「観光学関連」の採択件数の上位研究機関(2019年度)

研究機関	採択件数	総配布額(千円)
和歌山大学	5	23,530
九州産業大学	4	11,830
琉球大学	4	16,250
首都大学東京	3	8,450
北海道大学	3	38,610
立教大学	3	16,900
岩手県立大学	2	7,020
金沢大学	2	7,930
静岡大学	2	5,590
筑波大学	2	21,710
東海大学	2	7,020
東京大学	2	7,280
日本大学	2	8,580
阪南大学	2	5,200
三重大学	2	21,320
龍谷大学	2	8,840
早稲田大学	2	6,130

(注) 審査区分において「小区分80020:観光学関連」、また研究期間の開始年度が2019年度のもものを対象としている。
資料: 科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成

付記

観光研究

表 付記-4 科研費「観光学関連」の新規採択研究課題(2019年度～)

研究課題	研究種目	代表研究機関
スポーツイベントのレガシー効果に関する観光地理学的研究	基盤研究(B)	県立広島大学
観光誘致のためのVR映像の効率的な活用に関する実証研究	基盤研究(B)	国立研究開発法人情報通信研究機構
離島地域における住民の資源化に伴う観光地域社会の創出に関する地理学的研究	基盤研究(B)	筑波大学
自然災害からの復興過程における観光の役割に関する研究	基盤研究(B)	文教大学
観光資源としての文化的景観の保全と活用に関する研究	基盤研究(B)	北海道大学
コンテツツーリズムにおける「戦争」の消費と歴史理解に関する国際比較研究	基盤研究(B)	北海道大学
オーバーツーリズムでの持続可能な地域メカニズムに関する研究	基盤研究(B)	三重大学
スマート・ツーリズムにみる観光の変容	基盤研究(B)	立教大学
観光目的地的競争優位性:訪日客の増加を契機とするDMOマネージャーの役割の変容	基盤研究(B)	和歌山大学
海面利用実態を考慮した遊漁船業の津波防災計画策定手法の開発	基盤研究(C)	愛知工業大学
プラス要因・マイナス要因を考慮した実時間型観光スポット推薦システムの研究	基盤研究(C)	岩手県立大学
野外ミュージアムの特質を踏まえたデジタルマーケティング手法の実践的研究	基盤研究(C)	岩手県立大学
主催者意識及び立地環境をパラメーターとしたオープンガーデンの観光基盤モデルの完成	基盤研究(C)	江戸川大学
地域団体商標による温泉地ブランドの構築と競争優位性の比較研究	基盤研究(C)	大分大学
高精度位置情報データを活用したスポーツツーリズムの動態調査研究	基盤研究(C)	大阪経済大学
伝統工芸を対象とした自然に基づく文化多様性と観光マネジメント	基盤研究(C)	金沢大学
インバウンドの振興と地域発展の相互補完的関係—ソーシャル・キャピタルの視点から	基盤研究(C)	九州産業大学
旅行者と旅行先との関係構築プロセスの解明:顧客エンゲージメント理論を援用して	基盤研究(C)	九州産業大学
インバウンド訪日観光客が満足する旅館でのおもてなしとそのマネジメント	基盤研究(C)	九州産業大学
シェイクスピア生誕地のLiterary Tourism—マリー・コレリを中心に	基盤研究(C)	京都府立大学
地域内での美術館の集積を活用したアートによる観光振興の可能性に関する研究	基盤研究(C)	杏林大学
気候変動によるビーチの浸食が利用者の厚生と地域経済に与える影響の評価	基盤研究(C)	甲南大学
「自然」が文化資源化されるマストツーリズムの状況の観光人類学的研究	基盤研究(C)	公立小松大学
観光資源の発掘・再評価—機械学習による写真共有SNS分析を軸として—	基盤研究(C)	四国大学
「観光のダイナミズム」下での持続可能な観光地実現のための財政的基盤に関する研究	基盤研究(C)	静岡大学
統合型リゾート(IR)が地域経済・社会に与える影響と規制のあり方	基盤研究(C)	静岡大学
ワーケーションを推進するための地域観光資源の活用に関する研究	基盤研究(C)	実践女子大学
大規模災害からの観光復興に関する考察—電源地域・主に原子力の事例から—	基盤研究(C)	淑徳大学
観光者の環境配慮行動を誘発する他者行動:旅の恥をかき捨てない観光者行動の為に	基盤研究(C)	首都大学東京
ツーリズム・レクリエーション利用者による支払いのあり方についての研究	基盤研究(C)	上智大学
中国国内でのコンテツツーリズムの萌芽—観光行動の現地化と再帰性—	基盤研究(C)	大正大学
意識分析にもとづく国外旅行意向の国際比較研究	基盤研究(C)	筑波大学
アフターオリンピックにおける観光政策の課題	基盤研究(C)	東海大学
地域内マネーフローの向上に資する森林バイオマス活用と観光産業との融合	基盤研究(C)	東海大学
劇場を活用した観光客誘致による地域再生策の構築	基盤研究(C)	東京藝術大学
都市空間における集客学の計画理論構築と観光への応用に関する研究	基盤研究(C)	東京都市大学
カジノを核とするIR(統合型リゾート)の経済的効果と社会的コスト	基盤研究(C)	東洋大学
ホスピタリティ産業における国境を越えた知識移転の構造と促進要因の解明	基盤研究(C)	常葉大学
個人に適合して自動車旅行を支援する車載器	基盤研究(C)	鳥取大学
農山漁村と都市住民の意識変化に対応したグリーンツーリズムの方策・評価モデルの開発	基盤研究(C)	中村学園大学
旅行者属性を考慮した着地型観光行動の分析および誘客手法の研究	基盤研究(C)	名古屋学院大学
パリと沖縄の案内観光地に生じる観光サバルタンの事例考察を通じた観光リスク論の探究	基盤研究(C)	南山大学
地域連携プラットフォームのライフサイクルの把握とマネジメント・モデルの構築	基盤研究(C)	新潟大学
民泊の生活体験観光の規模と運営に関する研究—イタリア アルベルゴデフーズを基に	基盤研究(C)	日本大学
地域の食文化を対象とした観光の形成手法と波及効果に関するアクションリサーチ	基盤研究(C)	日本大学
地方創生のための伝統工芸産業の産地戦略:磁器産地の観光まちづくりの事例を通して	基盤研究(C)	函館大学
イタリアの農村ツーリズムにおける地域毎の推進状況の分析と有効な支援策の検証	基盤研究(C)	フェリス学院大学
世界遺産候補「百舌鳥・古市古墳群」の天皇陵古墳の意味をめぐる葛藤	基盤研究(C)	福岡大学
観光行動力導出による高齢者の旅行促進に関する研究	基盤研究(C)	北陸学院大学短期大学部
聖地研究 甲子園—聖地の生成と象徴性再生産プロセスに対する住民評価の研究	基盤研究(C)	武庫川女子大学
鉄道とヘリテージ・ツーリズムに関する日英比較史研究	基盤研究(C)	明治大学
インバウンド観光における観光土産のリピート購買促進のためのブランド認知の研究	基盤研究(C)	桃山学院大学
都市部における着地型観光事業者と地域住民との協働に関する研究	基盤研究(C)	横浜商科大学
複合現実体験としての聖地巡礼:ルルドをはじめとする19世紀西欧における虚実の融合	基盤研究(C)	立教大学
道の駅を拠点とした観光振興モデルの構築と経済効果に関する研究	基盤研究(C)	立教大学
「おもてなし」に対する海外消費者の態度に関する研究—米・中・台地域を中心に—	基盤研究(C)	立正大学
デザインエーション・マーケティングにおけるPPMの有為性の検証—沖縄県を事例に—	基盤研究(C)	琉球大学
クルーズ船上のゲスト&ゲスト:旅行者間の関係と旅行経験における相互作用の研究	基盤研究(C)	琉球大学
辺境観光地域における社会的DMO成立要件に関する観光経営社会学的分析	基盤研究(C)	琉球大学
包括的観光戦略の構築:国際観光都市におけるオーバーツーリズムの分析を通して	基盤研究(C)	龍谷大学
観光資源の景観特微化に基づく観光情報推薦システム	基盤研究(C)	龍谷大学
地方都市におけるプレイスメイキングと交流型観光の連携手法に関する研究	基盤研究(C)	和歌山大学
我が国の庭園観光の適切かつ持続的な推進に向けた研究	基盤研究(C)	和歌山大学
リビングヘリテージとその活用の多様性に関する比較研究	基盤研究(C)	早稲田大学
視線情報を用いた観光資源に対する潜在的注目度調査システムの開発に関する研究	若手研究	秋田大学
Tourist satisfaction - loyalty and resident perception in over-tourism context: Possible policies to promote tourism and enhance community satisfaction	若手研究	一般財団法人運輸総合研究所総合研究部
Challenges and Potentials of Transnational Film/Contents Tourism: A Case Study of Japanese Fan Tourists in Germany	若手研究	金沢大学
対人サービス企業におけるサービス提供の仕組みの最適化に関する研究—旅館業の事例—	若手研究	九州産業大学
観光回遊行動の実践的調査・分析フレームワークの構築と地域マネジメントへの活用	若手研究	首都大学東京
観光振興主体・空港・航空会社間のリスクシェアリング・メカニズムに関する研究	若手研究	首都大学東京
真に言語バリアフリーな観光情報システム	若手研究	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
旅行者の地域づくりへの参加を促すスタディツアーの研究	若手研究	東京大学
Real-time Disaster Self-evacuation with LBS and AR Enhanced Analogue Disaster Maps for Foreign Tourists—System Design and Effectiveness Tests	若手研究	東京大学
旅館の体質改善に向けたサービスマネジメントの研究	若手研究	阪南大学
ミュージアムの特性を活かした「観光プログラム」の構築に関する研究	若手研究	阪南大学
観光客の属性と旅行形態が観光周遊行動に与える影響に関する研究	若手研究	佛光大学
持続可能な観光開発の基礎となる住民の認識を明らかにする国際比較研究	若手研究	北海道大学
子どもを外遊空間の創出に資するアウトドア・レジャーの拠点形成に関する研究	若手研究	三重大学
多様化するインバウンド観光の計量マーケティング分析	若手研究	山口大学
持続可能な開発目標(SDGs)と地域住民を含んだ観光まちづくり:首里景観形成地域	若手研究	琉球大学
世界遺産の参詣道「熊野古道」を歩くことで得られる意味深い心理的経験の実証研究	若手研究	和歌山大学
山岳地域における環境変化と観光資源レジリエンスの包括的分析	若手研究	和歌山大学
観光客の災害の備えの改善:より精緻なリスクコミュニケーションのための実証的研究	特別研究員奨励費	京都大学
ブラジル北東部海岸地域におけるコミュニティツーリズム:エンパワーメントの視点から	特別研究員奨励費	早稲田大学
食と農村地域の文化遺産化:テロワール産品の日仏比較研究から	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	大阪市立大学

(注) 審査区分において「小区分80020:観光学関連」、また研究期間の開始年度が2019年度のものを対象としている。

資料:科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成